

第3章

土佐清水市の現状と課題を踏まえ、2021年度末までの観光戦略について3つのテーマを掲げて具体的な戦略および取組を提示するとともに、プランの線表を整理します。

3-1 戦略の基本方針

前述した本市観光の現状と課題を踏まえながら、マスタープランの目標を実現していくためのテーマおよび戦略の基本となる方針を以下に示します。

テーマ1 地域資源を守る

本市には、国立公園における海域景観をはじめ、足摺岬や竜串の奇岩等多様な自然資源が存在します。また、これら自然の恵みを活かした産業や暮らしなど、歴史・文化的な資源も豊富に息づいています。これら地域資源が観光の基盤となっていることを再認識しつつ保全意識を高めるとともに、市民が地域のことをもっと知り、愛着を感じられるような取組を進めます。さらに将来的に地域資源を守っていく子どもたちへの環境学習を促進します。

テーマ2 資源の価値を広める

豊かな地域資源の価値を広く伝えていくために、効果的な情報発信や体験プログラムの拡充、ガイドなどの人材育成、地域固有の「食」の安定供給などを図っていきます。また、竜串地区を一体的な観光拠点として位置づけるため、各拠点施設の連携を強固なものとし、加えて足摺地区、ひいては幡多広域との連携も進め、観光客にとって価値あるツアープログラムを作り上げていきます。

テーマ3 観光の魅力を高める

本市観光において重要な交通手段である二次交通の継続・拡大を検討していきます。また、個人客および外国人観光客などに対応した統一的なサインや、パンフレットなどの作成、地域の一体感を育む遊歩道などの整備を実施します。そのほか休憩所やトイレ、Wi-Fi環境など、観光関連施設の整備も進め、本市観光の魅力をさらに高めていきます。

3-2 戦略と取組一覧

戦略の基本方針に基づき、マスタープランの体系を示します（図 3-1）。マスタープランにおいては、「地域資源を守る」、「資源の価値を広める」、「観光の魅力を高める」といったテーマごとに、計画期間である 5 年間のうちに検討・実施する 11 の戦略と 33 の取組を設定しました。この戦略の検討・実施については、本市はもとより、市民や関係主体と協働・連携して、実効性の高い取組としていきます。

また、章末にはマスタープランの線表を整理しました（表 3-2）。取組ごとに、いつ誰が主体となって実施していくかを明確にしています。

目指す
すがた

市民誰もがおもてなしの心を持つ観光地

地域が連携し多様なニーズに応えられる観光地

マスタープランの目標

成果目標 1

オールシーズンの賑わいの促進

【年間 80 万人観光を目指す】

本市観光の魅力は海の資源によるものが多く、現状夏場の観光客が大半を占めていますが、まだそのポテンシャルは残されていると考えられます。一方、冬場のオフシーズンにおける観光の楽しみ方は少なく、今後、竜串地区の施設観光や爪白での冬場のキャンプ、足摺地区でのスターウォッチングやツバキ観光など、オフシーズンにも楽しめるメニューを拡充し、冬場の観光客増加も図ります。2015（平成 27）年における観光客数は、691,638 人となっています。計画期間において春～夏季 7 万人増（約 17% 増）、秋～冬季 4 万人増（約 15% 増）を目指します。

成果目標 2

地区および主体間連携による本市滞在時間の増加

【観光客滞在の市内プラス 1 泊を目指す】

マスタープランによる観光振興、賑わいの促進を図っていくための具体的な指標として、本市平均宿泊数を設定します。竜串地区の再整備をはじめ、足摺地区と市内中心街との連携による泊食分離や夜のイベントなどを組合せ、本市内でこれまでよりもプラス 1 泊観光の増加を目指します。現状においては、正確な平均宿泊数データがとれていないため、2017 年度に正確なデータを把握し、その後経年的に調査を継続して計画の最終年度に達成状況を評価します。

課題

◇観光資源の保全 ①②

◇宿泊利用者の減少 ③④
⑥⑩

◇効果的な情報発信 ③

◇観光関連人材の確保 ②⑤

◇おもてなしの心の醸成 ②⑤

◇地元「食」の充実 ⑥

◇二次交通の拡充 ⑨

◇地区間および施設間の連携 ④⑦
⑧⑩

◇観光関連施設等の整備 ⑪

テーマ 1 地域資源を守る

● 戦略① 地域資源の保全管理

- オニヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充
- 自然環境を題材とした調査研究活動の支援
- 足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進

● 戦略② 地域を守る意識の醸成

- 市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催
- 森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充
- 本市への I ターン、U ターン者への支援

テーマ 2 資源の価値を広める

● 戦略③ ターゲットを明確にした情報発信

- 観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討
- 外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施
- 蓄積された環境情報などの活用検討
- 官民協働による市全体の誘客 P R 活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施
- 観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施

● 戦略④ 体験プログラムの拡充

- 利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討
- 新たな体験プログラムの検討

● 戦略⑤ 土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成

- ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし
- ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備
- 台湾の大学との人材交流の強化

● 戦略⑥ 土佐清水ならではの「食」の提供

- 「食」をテーマにした取組の開催
- 「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討

● 戦略⑦ 観光拠点施設の連携促進

- 各拠点間の人材交流および情報共有
- 芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催

● 戦略⑧ 広域的な連携の促進

- 地区間共同および幡多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発

テーマ 3 観光の魅力を高める

● 戦略⑨ 二次交通の継続および拡大

- 「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ
- 民間事業者との連携による交通体系創出の検討

● 戦略⑩ 地区の一体感と活性化を育む整備の促進

- 竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進
- サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討
- 「竜串休憩所」の取り壊し
- 「ジオパークセンター」の設置の検討
- 「唐人駄場」の整備促進

● 戦略⑪ 観光関連施設等の整備促進

- 駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備
- 「見残し」のトイレ整備
- 案内看板の見直しおよび統一
- 観光施設における Wi-Fi 環境の整備促進
- 外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成

図 3-1 マスタープランの体系

テーマ 1 – 地域資源を守る

戦略① 地域資源の保全管理

本市観光のベースといえる自然資源の保全管理を確実に実施し、自然環境をベースとした観光振興を継続させます。本市の海岸線のほとんどは「足摺宇和海国立公園」に含まれ、特に竜串地区は、我が国最初の海中公園地区（現 海域公園地区）に指定されています。テーブルサンゴやキクメイシなどの数々のサンゴが成育する海環境および桜浜などの砂浜は本市の貴重な財産です。また、足摺地区のビロウやアコウなどの亜熱帯植物やヤブツバキなどの常緑広葉樹なども本市観光を支える資源であることから、森・川・里・海のつながりを重視し、本市の自然資源を適切に保全管理していきます。

さらに、本市にはこれら自然の恵みを活かした産業や暮らしなど、歴史・文化的な資源も豊富にあります。これらの価値も見直しながら体験プログラムなどへの展開を図っていきます。



オニヒトデ駆除



桜浜

◇具体的な取組

- ・ オニヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充
- ・ 自然環境を題材とした調査研究活動の支援
- ・ 足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進

戦略② 地域を守る意識の醸成

観光のベースである自然や歴史・文化的資源を継続的に保全していくためには、その価値を知り、地域に愛着を持つ市民を増やしていくことが重要です。自らが暮らす地域に誇りを持つことによって訪れる人たちに楽しんでほしい、感動してほしいというおもてなしの心が育まれます。また、近年では自然に触れる機会が減少し、地元のことをよく知らないという子どもたちも増えています。地元を離れる若者も多く、観光関連産業の人材不足は深刻です。したがって、市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会や、小・中学生の頃より地域の自然や歴史・文化的な価値に触れ、体験することで地元の良さの認識を高める環境学習の拡

充を図ります。森・川・里・海での学びを通して地元愛を育むとともに、将来的に地元に残る、または地元へ帰って職に就く人材を育成していきます。



小学生による観光ガイド



間伐体験



ツバキ再生プロジェクト

◇具体的な取組

- ・ 市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催
- ・ 森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充
- ・ 本市への I ターン、U ターン者への支援

Topics

【足摺岬のツバキ再生の取組】

足摺宇和海国立公園の保全管理を行う環境省は、本市ならびに地元住民組織などと共同で足摺岬のヤブツバキ林再生の新たな取組に着手した。足摺岬周辺には国内有数のヤブツバキ群落など地域固有の自然環境があり、1972（昭和 47）年に特別保護地区に指定されている。その後、メダケの繁茂が目立つようになり、1999（平成 11）年より対策に着手。本市の事業とあわせて 2011（平成 23）年までに約 1,000 本のツバキを植え、メダケの除去も行ってきたが、勢いは衰えていない。

本年度より始めたヤブツバキ林再生の取組は、このメダケを取り除き、ヤブツバキを中心にトベラなど 6 種計 2,000 本の苗木を育て、2019 年度から植樹するもので、その対象は、足摺岬先端に近い 2,200m² とし、そのうち人目につきやすい 170m² を先行区域としている。また、固有種保存のため、苗木は足摺岬周辺で種を採取して育てるとともに、育苗手順やメダケの伐採方法などをマニュアルにまとめる。

これまででも対策に関わってきた住民組織とともに取組を進め、若者にも参加を呼びかけるなどして本市全体に広げて観光資源としてのヤブツバキ再生を目指していく。



ヤブツバキ

テーマ２－資源の価値を広める

戦略③ ターゲットを明確にした情報発信

本市の観光資源である自然や歴史・文化をはじめ、それらを活かしたアクティビティや食などの魅力を多くの人に伝えて誘客につなげます。近年では、個人客が増加していることから、地域固有の価値を丁寧に伝えていくことに配慮します。情報発信は、各主体が自主的に行っていきますが、情報の内容は各主体間で共有し、SNS*や動画などをツールとした即時的なPRに努め、PCやスマートフォン、タブレット利用者などに訴求します。また、外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを整理し、それぞれに対応した効果的な情報発信に取り組めます。

竜串地区における新しい施設群については、その存在を広く伝えていくために本計画期間内に大規模なプロモーションを図っていく必要があります。官民協働による本市全体の誘客PR活動と合わせて、相乗効果を見据えた広報活動を展開します。竜串地区においては、「竜串自然再生事業」によってサンゴ群集の状況はもとより、周辺の環境に関する膨大なデータが蓄積されています。これらの情報とあわせて、周辺海域は研究者にとっては魅力的なフィールドとなり得ることから、このような情報の有効活用についても検討していきます。

さらに、ターゲットを明確にしていくためには、観光客の動向、宿泊利用者などに対する詳細なデータ集積を図っていく必要があります。関係機関と連携し、今後の施策に反映できる統計調査を実施していきます。



シーカヤック



外国人観光客

◇具体的な取組

- ・観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討
- ・外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施
- ・蓄積された環境情報などの活用検討
- ・官民協働による市全体の誘客PR活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施
- ・観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施

* Social Networking Service の略。人と人との繋がりを促進・支援するコミュニケーション型のウェブサイトおよびネットサービス。

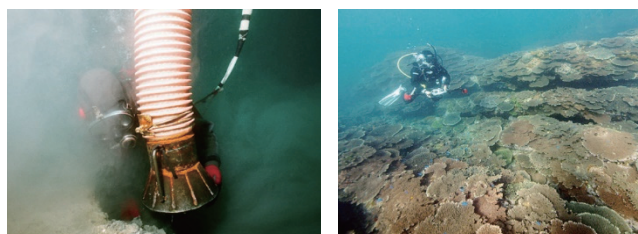
【竜串自然再生事業】

足摺宇和海国立公園の竜串海域公園地区では、1989（平成元）年頃よりサンゴ群集の衰退現象が見られるようになり、さらに2001（平成13）年9月には、高知県西南地域で発生した局所的な集中豪雨（高知県西南豪雨）によって、大量の泥土が竜串湾に流出し、多くのサンゴ群集が死滅するなど、大きな打撃を受けた。

このため、環境省は2003（平成15）年より竜串地区の自然再生事業推進に係る調査を開始するとともに、2006（平成18）年には自然再生推進法にもとづき、高知県ならびに土佐清水市と共同で72の個人・行政・団体で構成された「竜串自然再生協議会」を設立した。以来、サンゴ群集の衰退原因を究明することを主目的として、竜串湾と竜串湾に流れ込む河川の流域調査を実施し、その結果、流域から流入した泥土や濁質がサンゴの成育と再生に大きな影響を及ぼしていたことが判明した。環境省は、2006（平成18）年度から2013（平成25）年度の間の6年間に西南豪雨に起因する泥土の除去工事を実施、地域の各主体は山・川・海の各エリアにおいて様々な取組を実践した。

この結果、竜串湾内のサンゴ群集の回復傾向は顕著となり、「竜串湾内に本来生息しているイシサンゴ類をはじめとする多くの生きものが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻す」という竜串自然再生の目標は達成された。

竜串自然再生協議会は、2016（平成28）年度より地域の主導による体制に移行し、サンゴ群集をはじめとする地域の自然資源を守りながら活かし、後世に引き継いでいくという新たなターゲットに向かっていくこととなっている。



泥土除去作業の状況と復活したサンゴ群集

資料：中国四国地方環境事務所（2016b）

戦略④ 体験プログラムの拡充

本市においては、多種多様な資源を活かした様々な体験プログラムが提供されています（表3-1）。特に、海を活用したアクティビティは民間団体を中心に充実が図られ、利用者数も伸びているのが実状です。しかし一方で、実施主体および窓口的な機能は分散し、利用者にとってはややわかりにくい構造になっているものと考えられます。

今後は、ビジターセンターにおけるワンストップ機能や、新海洋館のコンシェルジュ機能などと協力・連携して体験プログラム情報の集約を図り、利用者にとって使い勝手のいい機能整備を進めます。さらに関係主体と連携し、メニューの増加および現状のプログラムの磨き上げに努め、今後増加が見込まれるシニア層など、あらゆるターゲット層に対応した魅力ある体験プログラムを提供していきます。



シュノーケリング教室



スキューバダイビング



スターウォッチング

表 3-1 本市で実施されている体験プログラム

分野	プログラム
自然体験	ホエールウォッチング、グラスボート、スターウォッチング、漁船海上遊覧、海釣り、海水浴、川・磯遊び
スポーツ体験	マンボウ・ジンベエスイミング、スキューバダイビング、シュノーケリング、シーカヤック、レンタサイクル、SUP
歴史体験	不思議ストーンサークル、ジョン万漂流体験、竜串海岸トレッキング
産業体験	定置網漁（大敷網）体験、間伐体験、カツオたたきづくり、節納屋体験（宗田節工場の体験見学）
施設見学	足摺海洋館、足摺海底館、海のギャラリー、ビジターセンター、ジョン万次郎資料館
ホームステイ・キャンプ	農漁村ホームステイ、爪白・唐人駄場キャンプ（スノーピーク）

注）プログラムは現在実施しているもののほか、予定のものも含んでいる。

◇具体的な取組

- ・ 利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討
- ・ 新たな体験プログラムの検討

戦略⑤ 土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成

本市の観光振興を図っていくためには、竜串地区や足摺地区の魅力を伝え広められる人材の確保・育成が急務です。自然資源や歴史・文化資源の価値をわかりやすく解説できる人材や、自然を活用したアクティビティ、海や山での遊び方などのインストラクター、地域のガイドが行えるような人材を掘り起こしていきます。さらに、ジオパークの推進に係るジオガイドの養成や観光ボランティアなどとの連携を図ることで人材を拡充し、いつでも観光客や教育旅行などを受入れ、対応できる体制をつくっていきます。

また、本市の外国人観光客は台湾からの観光客が約 8 割を占めていますが、本市では台北の大学とインターンシップ協定を結び、足摺地区のホテルにおいて研修生を受け入れるなど、人材交流を実施しています。外国人観光客への細やかな対応は、本市観光の価値を高めることから、今後、インターンシップ受入期間の延長および人員増を検討していきます。



観光ボランティア



インターンシップとの交流



ジオガイド養成講座

◇具体的な取組

- ・ ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし
- ・ ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備
- ・ 台湾の大学との人材交流の強化

戦略⑥ 土佐清水ならではの「食」の提供

昨今の観光の大きなコンテンツは、地域固有の魅力的な「食」の存在です。本市では、「清水サバ」をはじめとして、旬の魚や「宗田節」など、多品種の海の幸が豊富であり、さらには「ペラ焼き」といった地域特有のメニューも広く知られています。しかし、清水サバは安定的な供給が難しく、いつでも食べられるというわけではないのが実状です。また、観光客が気軽に食べられるスポットも限定され、昼食時などにおける対応にも課題が残されています。

市内中心街においては、2016（平成28）年12月より、宗田節を活用した「宗田節ロード」といった取組を展開しています。このような取組を広げ、観光客に地元自慢の「食」をいつでも、そして市内のあらゆる場所で味わっていただけるよう、関係主体と協働・連携して取組んでいくとともに、名物である「清水サバ」および旬の魚の安定供給に向けて、関係主体間での検討を進めます。



清水サバ



宗田節



ペラ焼き

◇具体的な取組

- ・ 「食」をテーマにした取組の展開
- ・ 「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討

【宗田節ロード】

土佐清水市市街地の居酒屋や食堂など 11 店舗が宗田節を使った料理を提供する「宗田節ロード」が 2016（平成 28）年 12 月よりスタートしている。

本市の宗田節の生産量は 1980 年代に年間 2,000t を超えていたが、近年は 400～600t 台にとどまっている。その一方で、「宗田節入りしょうゆ差し」など、市内業者が開発した商品や加工品が県内外で人気を集めており、消費者の認知度は高まっている。

飲食店の定番料理や新たに開発したメニューなどをパンフレットなどによってまとめて PR することで、消費拡大と観光振興につなげていく。



宗田節ロードチラシ

戦略⑦ 観光拠点施設の連携促進

本市全体の観光振興のためには、竜串地区における拠点間の連携が重要となります。新海洋館、ビジターセンター、爪白キャンプ場については、各整備主体が本年度より協議を開始し協力体制を構築していますが、これらに加えて既存の施設である「足摺海底館」や「レスト竜串」、「海のギャラリー」、「グラスボート」などとも連携を図っていきます。

竜串地区を一体的な観光拠点として位置づけ、情報共有や人材交流はもとより、地域住民が観光客との交流を図り、経済的な側面からも恩恵を受けられるよう、新海洋館東の芝生広場や竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用し、地場産物の販売や各種イベントの開催など、拠点施設が協力し合って地区全体の賑わいをつくっていきます。



奇岩フェスティバル



爪白キャンプ場



海のギャラリー

◇具体的な取組

- ・各拠点間の人材交流および情報共有
- ・芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催

戦略⑧ 広域的な連携の促進

本市観光においては、足摺地域も大きな役割を果たしています。足摺岬や唐人駄場、金剛福寺、あしずり温泉郷などは観光客にとって魅力ある資源です。ただし、観光のトレンドは個人客に移行しつつあり、「見るだけ」の観光から、知識としてもっと深く「知る」ことや「体験する」観光が求められてきています。足摺地区は宿泊地として大きなキャパシティがあり、今後は団体客への継続的な対応に加え、「泊食分離」といった考え方も加えて、地域市街地との連携を進め、個人客に対応していく必要があります。足摺地区においては国内有数の美しい夜空を見ていただく「スターウォッチング」が行われており、このような夜のイベントを広げていくことによって宿泊を促し、市街地で地域固有の食材を提供して翌日竜串地区で体験観光などを楽しむという流れを生み出すことができます。

さらに幡多広域という、より広いエリアで観光を捉えれば、観光客にとってさらに魅力的なツアープログラムの構築が可能となります。本市関係機関をはじめ、幡多広域観光協議会などとも連携を深め、観光客にとって価値あるプログラムを作り上げていきます。



本市の魅力的なイベント（椿まつりと海開き）

◇具体的な取組

- ・ 地区間共同および幡多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発

テーマ3 - 観光の魅力を高める

戦略⑨ 二次交通の継続および拡大

本市を訪れる交通手段は、自家用車以外ではバス利用しかない現状において、二次交通は観光を支える生命線ともいえます。その中にある、周遊バスの「しまんと・あしずり号」が果たす役割は大きく、この存続は本市観光振興の鍵を握ると考えられます。2017年度から2年間は、「志国高知 幕末維新博」の開催もあり、ルート的大幅な変更はあるものの、運行の継続は確定しています。しかし、その後の運行は不透明であり、この継続と拡大に向けた働きかけを根気強く行っていく予定です。

また、泊食分離に係る足摺地区および竜串地区の宿泊者の市内中心街への移動手段について、民間事業者との連携のもと、市内を循環するような交通体系の創出を検討していきます。



しまんと・あしずり号
周遊観光バスツアー
パンフレット

◇具体的な取組

- ・「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ
- ・民間事業者との連携による交通体系創出の検討

戦略⑩ 地区の一体感と活性化を育む整備の促進

今後予定されている竜串地区の新たな拠点整備は、地区の西側に集中しています。現状、地区を東西につなぐ遊歩道は、樹木が鬱蒼と茂った場所が多いことから地区特有の開放感が阻害され、また一部通りづらい箇所があることも相まって、その一体感が薄れているのが実状です。したがって、本計画期間内において関係機関と協力連携のうえ、地区間の連携を育み、歩いて楽しい遊歩道の整備を施します。

また現在、竜串地区の東側で廃墟となっている「サンゴ博物館」については、地元住民および関係者の意見を聞きながら取り壊しとその跡地の有効活用策について検討していくこととし、同じく廃墟となっている「竜串休憩所」については取り壊し、地区の一体的な活性化と観光地としての美観形成に寄与します。さらに、日本ジオパーク認定を目指して準備を進めている土佐清水ジオパーク構想に関連する取組として、活動の拠点となる「ジオパークセンター」の設置を検討します。この検討にあたっては、本市全体の活性化を睨んで、複合的な施設整備の必要性も合わせて協議していくこととします。

足摺地区においては、自然体験ができるパワースポットとして観光活性化のポテンシャルの高い「唐人駄場」の整備を進め、さらなる活用の展開を図っていくこととします。



遊歩道の現状



サンゴ博物館



竜串休憩所

◇具体的な取組

- ・ 竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進
- ・ サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討
- ・ 「竜串休憩所」の取り壊し
- ・ 「ジオパークセンター」の設置の検討
- ・ 「唐人駄場」の整備促進

戦略⑪ 観光関連施設等の整備促進

本市観光の魅力を高める駐車場やサイン、トイレ、遊歩道などについて、ユニバーサルデザインを念頭に置いた改修・整備を進めます。とりわけ、重要な観光スポットでありながら、以前よりトイレなどの整備が課題として懸念されていた「見残し」については、2017年度に整備を実施します。また、現状乱立している案内看板なども見直しを図り、統一感があってわかりやすく、外国人観光客にも対応したサイン設置を進めていきます。そのほか、各観光施設における Wi-Fi 環境*の整備促進や、外国語版観光パンフレットなども作成していきます。



案内看板の現状

◇具体的な取組

- ・ 駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備
- ・ 「見残し」のトイレ整備
- ・ 案内看板の見直しおよび統一
- ・ 観光施設における Wi-Fi 環境の整備促進
- ・ 外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成

* 無線 LAN (Local Area Network) の規格の一つ。PC やテレビ、スマホ、タブレット、ゲーム機などのネットワーク接続に対応した機器を、無線 (ワイヤレス) で LAN に接続できる環境。



図3-2 竜串地区における整備計画などの概要
資料：中国四国地方環境事務所（2016a）を参考に作成

表 3-2 マスタープラン線表

テーマ	戦略		取組		協働・連携主体				土佐清水市		実施期間							
					市民	事業者	NPO 等団体	国・県	市	担当課	2017	2018	2019	2020	2021			
テーマ 1 地域資源を守る	①	地域資源の保全管理	1	オコヒトデの駆除活動や、生きもののモニタリング活動など、自然資源を保全していく活動の拡充		○	○	○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施						
			2	自然環境を題材とした調査研究活動の支援					○	○	○	観光商工課	検討・実施					
			3	足摺ヤブツバキ再生に向けた活動推進		○			○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施					
	②	地域を守る意識の醸成	4	市民を対象にした地元の価値を学ぶ学習会の開催			○	○	○	○	観光商工課	検討・実施						
			5	森での間伐体験や川の生きもの調査、海での自然観察会や漁業体験、足摺ヤブツバキ再生活動など、自然資源を活かした環境学習の拡充		○	○	○	○	○	農林水産課 学校教育課 観光商工課	実施						
			6	本市への I ターン、U ターン者への支援					○		○	企画財政課 観光商工課	実施					
テーマ 2 資源の価値を広める	③	ターゲットを明確にした情報発信	7	観光情報の発信状況の整理、見直し、および発信主体間での情報内容の共有と効果的な情報発信の方法についての検討		○	○	○	○	○	観光商工課	検討・実施						
			8	外国人観光客や体験観光、スポーツツーリズムなど、ターゲットを明確にした情報発信方法の検討、実施		○	○	○	○	○	生涯学習課 観光商工課	検討・実施						
			9	蓄積された環境情報などの活用検討				○	○	○	○	観光商工課	検討・実施					
			10	官民協働による市全体の誘客 P R 活動と竜串地区新施設の一体的なプロモーションの実施				○	○	○	○	観光商工課	実施					
			11	観光客の動態、宿泊利用の詳細など統計調査の実施				○	○	○	○	観光商工課	実施					
	④	体験プログラムの拡充	12	利用可能な体験プログラムの整理、見直し、および関係主体間の情報共有の検討					○	○	○	観光商工課	検討・実施					
			13	新たな体験プログラムの検討				○	○	○	○	農林水産課 生涯学習課 観光商工課	検討・実施					
	⑤	土佐清水の魅力を広める人材の確保・育成	14	ツアーガイド、インストラクターなどの人材の掘り起こし				○	○		○	観光商工課	実施					
			15	ジオガイド養成や観光ボランティアと連携した人材の拡充および受入体制の整備							○	観光商工課	実施					
			16	台湾の大学との人材交流の強化					○		○	観光商工課	実施					
	⑥	土佐清水ならではの「食」の提供	17	「食」をテーマにした取組の開催		○	○	○	○	○	農林水産課 観光商工課	実施						
			18	「清水サバ」をはじめとする旬の魚の安定供給に向けた関係主体間での検討		○	○	○			○	農林水産課 観光商工課	検討・実施					
	⑦	観光拠点施設の連携促進	19	各拠点間の人材交流および情報共有				○	○	○	○	企画財政課 観光商工課	実施					
			20	芝生広場、竜串地区東側の駐車場、桜浜などを活用した各種イベントの開催		○	○	○	○	○	○	観光商工課	実施					
	⑧	広域的な連携の促進	21	地区間共同および幅多広域観光協議会との協働によるツアープログラムの開発				○	○	○	○	観光商工課	検討・実施					
テーマ 3 観光の魅力を高める	⑨	二次交通の継続および拡大	22	「しまんと・あしずり号」の継続・拡大に向けた県および民間事業者への働きかけ				○	○	○	○	企画財政課 観光商工課	実施					
			23	民間事業者との連携による交通体系創出の検討				○	○			○	観光商工課	検討・実施				
	⑩	地区の一体感と活性化を育む整備の促進	24	竜串地区全体をつなぐ遊歩道の整備促進						○	○	観光商工課	検討・実施					
			25	サンゴ博物館の取り壊しおよび跡地利用の検討		○	○	○	○	○	○	観光商工課	検討・実施					
			26	「竜串休憩所」の取り壊し						○	○	観光商工課	実施					
			27	「ジオパークセンター」の設置の検討		○	○	○	○	○	○	観光商工課	検討・実施					
			28	「唐人駄場」の整備促進				○	○	○	○	○	観光商工課	検討・実施				
	⑪	観光関連施設等の整備促進	29	駐車場、休憩所、トイレ、遊歩道など、ユニバーサルデザインによる改修・整備				○	○	○	○	観光商工課	実施					
			30	「見残し」のトイレ整備						○	○	観光商工課	実施					
			31	案内看板の見直しおよび統一							○	○	観光商工課	実施				
			32	観光施設におけるWi-Fi環境の整備促進				○		○	○	観光商工課	実施					
			33	外国人観光客に対応したパンフレットなどの作成					○	○	○	観光商工課	実施					

実施 → 新規・継続・拡充して実施する取組
検討・実施 → 実施に向けて検討が必要な取組